

総合患者支援センターニュース

〒700-8558
岡山市北区鹿田町2丁目5番1号
岡山大学病院
総合患者支援センター
☎086-223-7151 (代表)
☎086-235-7744 (直通)

Integrated Support Center for Patients and Self-learning
Okayama University Hospital



センターの活動に関しては
ホームページ (<http://www.cc.okayama-u.ac.jp/>)
をご覧ください。

マグネットホスピタルを目差して

岡山大学病院総合患者支援センター長 榎野 博史

皆様。新年あけましておめでとうございます。

年頭にあたり一言ご挨拶申し上げます。また、日頃から当センターの運営にご協力いただき厚くお礼申し上げます。

本年は第二期中期目標期間の4年目となる年です。本院が掲げている多くの目標はその達成に向け動きがますます活発化し、早くも成果等が現れつつある状況にあるなか、当センターにおきましても地域医療連携システムの運用開始など取り組んでまいりました計画が着実に成果に繋がりにつつあります。これらはセンター職員の日頃の努力と前向きな取り組みはもちろんです。ご協力いただきました皆様のお陰と、厚く感謝申し上げます。

さて、本院の基本理念は「高度な医療をやさしく提供し、すぐれた医療人を育てる」であり、「あなたのそばに先進医療」をモットーに掲げております。これらの理念・モットーを常に意識し、我々センター職員も日々努力をしております。

本院は肺移植や肝移植をはじめとして高度な医療・先進的な医療の面では、国内にとどまらず全世界に誇る実績をあげていることは皆様ご存じのとおりで、最も進んだ病院となっております。さらに、日々新しい医療の開発を続け、先進的な医療を創造し実践するために各種センターの連携や、平成24年度から高度救命救急センター（岡山県から、災害拠点病院として指定）を設置するなど、最後の砦病院として本院に科せられた大きな使命を果たし、県民のニーズに応えるべく体制を整えて安心・安全な医療を提供しております。そして岡山大学病院の医療及び看護の質を高め、患者さんを惹きつけて離さない、また、若手の医師、歯科医師をはじめとする全医療スタッフが誇りと希望を持てる働きやすい環境にして職員を惹きつけて離さない病院という意味で「マグネットホスピタル」を目指しています。

これらの本院における目覚ましい数々の実績は、患者支援や地域医療連携を主な業務とする総合患者支援センターもしっかり支えており、当センターが起点となっている場合が少なくありません。

患者さんへの包括的で継続的なサービスの提供を医療・保健・福祉の点から総合的に行い、患者さんへの種々の相談に応じながら、院内の医療連携を支援へと繋げて行くという重要な役割があります。

我々センター職員一同、大きな誇りを持って、已年の本年はさらに脱皮し、心身ともに一回り成長できるようがんばってまいりたいと思います。

今年一年、どうぞよろしく申し上げます。





「私たちは患者様に最良の医療とケアを提供するために活動します」を合言葉として、平成15年4月に産声をあげた岡山大学病院総合患者支援センターも今年10周年を迎えます。

総合患者支援センターの体制は時に応じて変わってきましたが、ロゴマークの「O」と「U」の組み合わせが示すように、患者様に「O」の心(heart)からの支援と「U」の差し伸べる手(support)及び技術(hand,skill)を、医師、ナース、ソーシャルワーカー、事務、ボランティアの方々など様々な立場から、継続的に提供するという目的はかわることはありません。今後もその目的のために活動してまいりますので、引き続きご指導を賜りますよう、宜しくお願い致します。

◆総合患者支援センター10周年 院内勉強会開催◆

今年度職員を対象に「退院支援を考える～院内連携、他機関連携をすすめるために～」をテーマに勉強会を行いました。10年の節目に改めて院内で当センターの機能や退院支援のしくみを周知し、患者さんの入院生活から退院、在宅療養へむけてよりよい支援の連携を図ることを目的としたものです。



センタースタッフが講師を担い社会保障制度や退院支援の実際について報告を行いました。院外連携の講義では実際に連携を図った訪問看護ステーションの方をお招きし、退院された患者さんの自宅での様子などを報告していただきました。参加職員からは「どのような仕事・活動をされているのかわかった、患者さんにも紹介できると思う」という声も寄せられました。患者さんにより質の高い支援が行えるように一層努力していきたいと思えます。

◆センタースタッフの院外での活動報告◆

平成24年11月25日(日)岡山大学病院歯科棟にて「第33回岡山歯学会総会・学術集会」が開催されました。この会の目的は「歯学及びそれに関する科学について研究し、その交流を図り、学術の発展に寄与すること」です。毎年、岡山大学歯学部を卒業された先生、在職者等の一般口演の他、特別講演、歯科技工士セッション、歯科衛生士セッションが開催されます。今年は「チーム医療シンポジウム」と称し『周術期における多職種の間わり』をテーマに、歯科医師・看護師・薬剤師・理学療法士・ソーシャルワーカー・歯科衛生士の6つの職種の先生方を招き、歯科衛生士を対象に、手術を受けられる患者さんや他職種への間わりについて講演・シンポジウムを行いました。中でも当院「総合患者支援センター」の石橋京子ソーシャルワーカーのお話は、患者さんの視点に立った内容で、大変興味深く聞いて活発な意見交換が行われました。(文責 歯科衛生士室 三浦 留美)



「第33回岡山歯学会総会・学術集会」の「チーム医療シンポジウム」において、「周術期におけるソーシャルワーク」というテーマで報告させていただきました。周術期の患者さんやご家族へのソーシャルワーカーの間わりや退院支援の取り組み、またがん患者支援としてのがん患者サロンやピアサポーターの活動についても紹介させていただきました。



チーム医療や院内・院外連携が専門職間のみならず、患者さんやご家族にとっていかに機能しているのかを振り返るとともに、シンポジストの方々の日々の活動を学ばせていただくことができ、学びの多いシンポジウムとなりました。(ソーシャルワーカー 石橋 京子)

◆センタースタッフの紹介◆

11月25日付で総合患者支援センター所属になりました看護師の濱田由香と申します。出身は高知県で、H24年3月まで静岡がんセンターで退院支援・在宅支援業務に携わっていました。がん以外の患者さんに対する支援は不慣れですが、患者さん・ご家族の思いを大事にしながら、地域の方々と連携して、退院支援や在宅療養支援を行っていきたくと思っています。皆様にご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、よろしくお願い申し上げます。



濱田 由香

ボランティアの活動紹介（園芸）

当院の病院ボランティアには、外来・患者図書室・小児科病棟での子供のあそび相手をするグループ・園芸の4つの活動グループがあります。今回は、その中で、園芸グループについてご紹介します。

「園芸グループ」は入院病棟西側の芝生のあるお庭で活動しているグループです。季節に合った花の苗や球根を植え付けて育てています。庭づくりだけではなく、チューリップ交流・イチゴ交流・もも交流など、植物や果物の栽培や収穫を通して、院内保育園児や精神科病棟との交流も行っています。

患者さんたちがながめて癒され、訪れる人が季節感を楽しみながら思い思いの時間をすごせるような庭づくりをめざして、日々活動しています。



全国ガーデニングコンテストで表彰されました。



冬の庭



春の庭

病院ボランティア感謝状贈呈式を行いました

平成24年12月6日（木）病院ボランティア感謝状贈呈式・懇親会を行いました。

当院には、病院ボランティア組織があり、外来案内・患者図書室・小児科での活動・園芸グループに分かれて活動をしています。毎年、活動時間に応じて、ボランティアの方に感謝状をお贈りしています。

懇親会では、ボランティアの皆様と職員で軽食を囲み、交流をしました。ボランティア活動に対する姿勢やあたたかな思いをお聞きできた有意義で楽しい時間となりました。



表彰対象の方

- 礒山 幹雄 様（2000時間達成）
- 馬場 和子 様（1000時間達成）
- 山本 慶子 様（500時間達成）
- 栃木 妙子 様（200時間達成）
- 日野 優理 様（200時間達成）
- 平石 千津 様（200時間達成）

「がん相談支援センターとは」

総合患者支援センター ソーシャルワーカー 日高 千陽

当院は、平成19年8月に都道府県がん診療連携拠点病院に指定され、その要件に「相談支援機能を有する部門の設置」があり、当院は総合患者支援センターが担うことになりました。

がん相談支援センターの主な役割は、①がん診療の標準的な治療法に関する医療情報の提供②がん治療の疑問や不安、退院後の生活など療養上の相談③医療費や介護・福祉サービスの利用に関する相談④在宅療養を支援する地域の医療機関や訪問看護ステーション等に関する情報提供および紹介⑤がんによるからだやこころなどの様々な痛みを和らげる緩和ケアに関する相談⑥セカンドオピニオンを行っている医療機関に関する情報提供⑦アスベストによる肺がんや中皮腫に関する相談などが求められています。

当院のがん相談の内容については、「社会保障制度に関すること」「在宅療養」「緩和ケア」が年々増加しています。外来で高額な化学療法を受ける患者の増加に伴い、医療費の相談が増えています。

今後の病状に伴って在宅サービスの調整や地元で対応できる病院などの情報提供を求められることも増えています。

広報活動としては、市民公開講座の開催があります。また患者活動支援においては、がん患者サロンの開催、ミニ講座の企画、ピアサポーター活動のPRと現任者の継続研修をしています。今後は、さらにがん相談支援センターの周知を図り、適切な情報提供ができる体制づくりや、院内・外の関係者と情報共有しながら患者さんやご家族を支えるネットワークをつくっていきたいと思います。

臨床心理士をご存じですか？～がん相談での臨床心理士の役割～

●●はじめまして。臨床心理士の土山璃沙と申します●●

私は腫瘍センター・精神科リエゾンチーム・緩和ケアチームに所属し、活動している心理士です。

?心理士とは?

人の気持ちに寄り添いながらお話を聴いて、一緒に色々なことを考えていく、云わばサポーターです。人それぞれに考え方や思い、感じ方は違います。その人その人の中にある答えや行先を見つけるお手伝いをする存在です。

☆院内での役割と活動☆

院内に臨床心理士は10名以上おり、小児科・小児神経科・精神科・認知症グループなど様々な分野で活躍しています。

私自身は、腫瘍センターではがんの患者様のお話を伺い、少しでも安心して治療に臨めるようサポートしたり、リエゾンチーム・緩和ケアチームでは入院患者様のところへ伺ってカウンセリングをしたり、必要に応じて精神科の医師へ繋ぐ役割もしております。

♪がん相談での心理士♪

“がん”になると、告知を受けたときのショックや病気の受け止めに対する葛藤、治療のつらさなど様々なストレスを経験されます。そんな患者様のお話を伺いながら、少しでも治療に心穏やかに臨めるようにサポートしていきます。また、中にはうつ病など精神科の治療が必要な方もおられます。そのような患者様を適宜必要な医療（精神科受診等）へ繋いでいくための評価も行っております。

